



都道府県作業療法士会連絡協議会

## NEWS

発行所：都道府県作業療法士会連絡協議会  
四国支部事務局  
〒779-3122

徳島県徳島市国府町府中 592 番地 7

株式会社 豊 結 会 デイサービスセンター **For You** -国府-

TEL:088(6789)777 FAX:088(6789)977

発行人 上田 裕久

編集人 田中 茂

## 第 32 回四国作業療法学会のご案内



第 32 回四国作業療法学会

学会長 吉野 哲一

第 32 回四国作業療法学会の学会長を仰せつかりました、徳島県作業療法士会の吉野と申します。第 31 回四国作業療法学会では、はじめてのオンライン開催となり、これまでリアル参加が困難な方には自宅で聴講できるというメリットがありながら、オンラインに馴染みのない方にはちょっとハードルの高い学会となったかもしれません。次回の四国作業療法学会におきまして現時点では、オンラインとリアルの両方を検討しておりますが、コロナウイルス感染拡大の懸念もありますので、オンラインのみとなることも考えられます。学会の会期につきましては、コロナ前の会期へ戻していくことを鑑みまして 2023 年 1 月 28 日、29 日を予定しております。

今年度の学会は、「創造する作業療法（仮）」をテーマに現在内容構成を考えております。現在の社会情勢において、コロナショック、ウクライナ危機などにより私たちの生活も大きく変化しました。医療・福祉職においても活動や行動の制限もありながら、利用者サービスの低下にならないように創意工夫しながら業務や、デジタル変革においてオンライン中心になるなど新たなサービスが生まれたのではないのでしょうか？まさに破壊と創造の中でこれから私たちは何を創造していけばいいのか？アフターコロナの社会でこれから作業療法士としてどのような技術が必要か？未来の作業療法士の在り方などを考えられる学会にしたいと考えております。

徳島の戦国武将「三好長慶」は、「人間は木と同じ。風が強い所では独り立ち出来ない場合があり、その時は添え木をしなければならない。人間の修行はこの本体である木に対しての添え木と同じ。添え木のない人間は、必ず倒れる。」と言ったそうです。自らの才能だけに驕らず、修行によって精神を高め、立派な人間になれると説いていました。私たちも研鑽を怠らず、作業療法士としての添え木となる学会を目指しますので、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

## 第 31 回四国作業療法学会をおえて

第 31 回四国作業療法学会  
学会長 浅川 英則

春の陽気が感じられる日が増えてきましたが、皆様お変わりありませんでしょうか。

この度、前回の第 30 回四国作業療法学会がありました 2019 年 9 月より、実に 2 年と 5 カ月の期間を経て、2022 年 2 月 26 日、27 日に第 31 回四国作業療法学会をオンラインにて開催することができました。開催にあたりご協力いただきました皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。当方のリクエストに快く応えていただいた講師の先生方をはじめ、司会、座長をお受けくださった先生方、演題発表にエントリーしていただいた先生方、そして学会に参加してくださった先生方、心より感謝申し上げます。

終えてみての感想は、オンラインでの学会はやってみると楽しかったということです。対面での学会運営しかしたことがなかったため、最初は本当に何から始めてどこに向かうのかといった状態でした。しかし、やれば少しずつ要領を得ていくもので、発見、確認、応用というように一つ一つの作業を進めていきました。何事もそうですが、最初は初心者でも続ければ上手になります。今回はその第一段階を通過したということです。次に行うとすれば準備に要する時間も大幅に短縮できると実感しています。

今回、学会参加者は二日間延べ 214 名と通常の四国学会からするとかなり少ない結果となりました。コロナ禍であることや、オンライン環境やデータ通信料などの要因で参加を見送るとの話もお聞きしました。また、開催地に直接出向いて、友人に久しぶりに会えたり、新たな出会いがあったり、夜は懇親会で親睦を深めたりという従来の学会ならではの楽しみもありませんでした。今回は zoom ウェビナーにて行いましたので、参加者同士のお顔も見えず、対面での学会とは対極的な学会だったのかもしれませんが。約二年前までは当たり前だったことが、今は憧れのようになっていて、そう考えるとその時にやれることをやっておくというのは、とても大切なことだとつくづく感じました。

今後、世の中の状況がどのように変わっていくのかは分かりませんが、それぞれの生活の中で大切なことを優先していく形で良いと思います。その選択肢に学会が入った折にはぜひご参加いただき学会を盛り上げていただけたらと思います。その機会に皆様とお会いできるのを楽しみにしつつ、私自身も日々励んでいきたいと思っています。コロナは未だ終息の兆しが見えませんが、皆様の健康と安全が守られますよう心より願っております。





## 受賞報告

### 優秀賞受賞者

- コロナ禍における子ども運動教室の必要性

稲富 惇一（土佐リハビリテーションカレッジ）

- e スポーツで広がる世界

大前 博司（徳島大学病院）

- 刑務所でニーズを重視した作業療法が展開できた一事例  
～自閉症スペクトラム障害のある受刑者に対して～

足立 一（高知リハビリテーション専門職大学）



## 県士会トピックス



### 徳島県



徳島県作業療法士会 事務局

### 徳島県作業療法士会 細川友和

徳島県作業療法士会では平成 27 年度から徳島県地域医療介護総合確保基金事業として、「生きがいある生活行為推進指導者」を育成する目的で、介護予防推進リーダー研修を開催しています。昨年度からは新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、対面研修とオンライン研修を同時に行うハイブリッド開催を行なっています。平成 30 年度からはアップデート研修も開催し、今年度までに介護予防推進リーダー研修を 297 名、アップデート研修を 60 名が修了しました。修了者には C 型事業や地域ケア会議の助言者等として活躍いただいております、特に地域ケア会議については年々、相談いただく市町村が増加している状況です。作業療法士の立場から有益な助言を行えるよう継続的な質の向上が必要です。そのため研修内容も毎年見直しており、今後は新規受講者だけでなく、修了者に対して再受講も促してゆきたいと考えています。



### 香川県



香川県作業療法士会 事務局

### 香川県作業療法士会 小松博彦

今回は、広報部の活躍を紹介したいと思います。令和元年から広報活動をリニューアルしました。それまでも香川県最大の商業施設ゆめタウンや高松駅周辺を拠点として、作業療法の広報イベントやアンケート調査など創意工夫をしてきましたが、ターゲットが広く、その場だけの理解に止まってしまうことが課題でした。木村勇介広報部長を中心とした部員たちは、ターゲットの明確化と自ら足を運ぶことを目標に、「高校訪問活動」をスタートしました。「作業療法士になる」ことに一番近い高校生を対象に、趣旨に賛同いただける高校を募ると 1 校からの依頼があり、10 名の高校生が参加してくれました。令和 2 年は 2 校からの依頼があり、合わせて 21 名。令和 3 年も 2 校から依頼を受け、27 名が参加してくれました。参加者には作業療法士を目指している学生も多く、「自分で調べるだけでは限界があり話を聞けてよかった」「実際に知ることができた」「専門学校や大学などについて知れた」といった感想があり、質問では「アルバイトしながら学校は行けますか」といった内容も聞かれました。同席している学校の先生は「イメージが違った。進路指導で生徒に伝える材料になった」「またお願いしたい」と非常に好意的な意見もありました。令和 4 年、6 校からの依頼を受けています。新型コロナの影響もありますが、着実な広報活動を展開しています。







愛媛県



愛媛県作業療法士会 事務局

愛媛県作業療法士会 櫛部拓也

愛媛県作業療法士会では、今年度より「臨床実習指導者講習会運営委員会」を立ち上げました。講習会の企画・運営を通じて後輩育成のサポートを行っています。今年度も zoom によるオンラインで年 2 回開催しました。当初は「オンラインでも活発な話し合いが出来るのか。報告書の作成は出来るのか。」等、不安が強かったのを覚えています。しかし、受講者の皆様からは活発な意見が飛び交い、報告書の作成も大きな問題は無く行えています。また、臨床実習の在り方や変化点に関して、1 日目は否定的な意見が挙がりますが、2 日目には肯定的な意見や前向きな意見を多く聞くことが出来ます。その為、作業療法士の柔軟性と対応力には、毎回、驚かされています。

臨床実習は、作業療法士の職域を守る意味でも非常に重要な教育現場になります。今後も、臨床実習の在り方に関して知識や理解を深めて頂き、新たな仲間（学生）を教育できる指導者が一人でも多くなるよう努めていきます。

#### 講義 5

#### 職業倫理および連携論

卒後教育との関連  
多職種連携・チームワーク論



高知県作業療法士会 矢野勇介



高知県



高知県作業療法士会 事務局

#### ①一般介護予防事業『ハツラッツ』に高知県作業療法士会が参画！

高知県作業療法士会は、仁淀川町の一般介護予防事業『ハツラッツ』を支援しています。地域支援事業の実践や知識を有している作業療法士 4 名が 2 週に 1 回のローテーションで参画しており、地域住民の介護予防に取り組む熱心な姿勢と迫力に圧倒されながら、地域の方々と一緒に切磋琢磨しています。県士会で参画していくことで、個人での参画では気づかなかった視点や、楽しさ、作業療法の奥深さを実感しています。

#### ②学術誌について 学術部では①会員の資質向上 ②他職種・他業種・県外の作業療法士に会員の取り組みを知ってもらう、この 2 点を目的に学術誌「高知県作業療法」を発刊いたしました。創刊号では特集論文 5 本と投稿論文 5 本を掲載しました。下記 QR コードから PDF を見られるようになっていきますので、一度読んでいただくと幸いです。

#### ③認知症カフェへの参画

地域連携部認知症班では、認知症の人に携わる方を支援する目的で認知症カフェを 2021 年より開催しています。今年度は、『支援する方の情報交換会』『認知症に見られる症状と対応方法』『食事と認知症について』『認知症を予防する運動療法』などをテーマとして取り組みました。また認知症カフェのロゴを作成し活動の PR もしています。



(学術誌：高知県作業療法) (認知症カフェのロゴマーク)



(一社) 日本作業療法士協会 常務理事 三澤一登  
愛媛十全医療学院

2021年5月29日の日本作業療法士協会代議員総会での役員改選において理事に就任し6月の理事会では引き続き常務理事に任命されました。気がつけば理事になって9期18年目に入ります。また、新執行体制では中村会長より教育部長の職を拝命いたしました。制度対策部長としては道半ばではありますが、心機一転、教育部長としての役割を全うする考えで会務運営にあたります。さらに、四国の作業療法士の皆様の声を協会に届けるべき活動に反映できるよう努めていく考えでおります。今後とも引き続き宜しくご支援ご協力をお願いします。

2022年度もCOVID-19の拡大に伴う様々な影響が考えられ、個々の生活スタイルの変更や臨床現場及び養成教育においても継続的に予測されます。日本作業療法士協会はCOVID-19感染対策/作業療法業務についてVer.3が示され、会議はオンライン形式に変更し、基本対面での活動は感染状況を見ながの対応で場合によっては自粛の判断をすることになります。新しい生活様式への適応が求められておりますが、1日も早く普段の生活に戻りたいと考えているのは私だけでは無いと思います。

ここでは、協会活動に関する概略と私が関わっている部署に関連する情報を提供したいと思います。

#### 「2022年度重点課題項目」

今年度は、第三次作業療法5ヵ年戦略の最終年でもあり、総括した内容を基に2023年度からの第四次作業療法5ヵ年戦略の策定に着手し、何度か理事会でも議論し共生社会・組織率向上の2つの柱をあげて取り組む方針が決定しております。共生社会の実現には引き続き地域包括ケアシステムへの寄与は重要で、作業療法士にとっても専門性と社会的な役割の一端を担うことになります。一方で、組織率は職能団体としては社会的信用と信頼を得るための指標でもあるため喫緊の課題といえ向上に向けた具体的な事業展開が必要です。また、来年度からの協会組織再編に向け体制を整備すると同時に「士会員＝協会員」を目指し都道府県作業療法士会と連携し関連事業を推進していくことになります。

#### 「教育部関連情報」

一つ目は、2025年指定規則の改正に関連し作業療法教育の更なる検討が予定されております。3年生の専門学校においては、新カリキュラムで教育を受けた学生が臨床実習に臨みます。コロナ禍において臨床現場での対応が困難となり、本来ならば段階的に習得すべき技術面の体験が不足しております。一方で、臨床実習指導者講習会の受講者数も計画通り増加していることはありがたく思います。医療専門職は後輩育成に関し責任を持って取り組む必要があり、作業療法士の質を担保していくことがさらに望まれています。さらに、今後、検討が進められる協会・各養成校・都道府県士会・臨床実習施設が連携したコンソーシアム構想は、養成教育と生涯教育が連動し関係機関が一致協力した体制作りが鍵となります。

2つ目は、新生涯学修制度です。協会組織としては、生涯教育委員会に新生涯教育制度検討班と推進班として位置づけ検討を重ねております。卒業後2年から3年目を対象にした基礎研修の内容と項目につきましては、対象となる会員と管理者向けにアンケートを実施し分析した内容を基に具体的な検討を開始しております。また、基本的な技術面の習得に関しては、OJTを活用し地域の病院や施設における対応について検討も始まります。将来、認定作業療法士・専門作業療法士の取得に向け、制度全体を見据えながら会員の皆様へは随時情報を提示していく計画です。日本理学療法士協会は既に2022年4月からの運用を開始しております。本協会、教育部としても内外の団体からも認知頂けるより良い制度を目指してまいります。

3つ目は、研修運営に関して、コロナ禍による影響を懸念しておりましたが、新たなオンライン・システ

ムの導入に伴い研修受講を希望する会員が増加し更なる対応を検討しております。会員が学びたいときに学べる環境を提供できるよう努力していきます。

また、現行制度のシステム移行手続きに時間が掛かり生涯学習制度推進委員の皆様には、多大な労力と時間的負担をお掛けし申し訳ございません。さらに、新規の脳血管障害専門作業療法士の申請や臨床実習指導者講習会のポイント入力作業では事務的手続きの不備により会員の皆様にご迷惑お掛けしたこと重ねてお詫び申し上げます。

### 「制度対策部関連」

2022年の診療報酬改正から2023年度は介護報酬・障害福祉サービス料の改正を控え議論が開始されております。基本的な方向として考えられるのは、限られた財源の有効活用の為には実績評価に基づく費用対効果の検証です。一方では、成果・効果の根拠になるビックデータの集積と分析が開始されており、作業療法の成果を示すことが求められています。もはや「量」ではなく「質」の時代に入り医療の「効率化」と「質の向上」が継続的に進められている証拠でもあります。現場の作業療法士の臨床力の向上と質の担保というまでも無く、会員一人一人の意識を改めて見直す時期にきています。作業療法の成果・効果を示すことの出来る指標や体制作りは継続的な課題といえます。

### 「組織再編」

魅力ある協会組織である為には、事務局の機能強化と理事の役割分担を明確化にして再編を推進し、適宜、迅速に対応できる即応性と機動性を構築していく必要があります。その為には、人材の確保と同時に人材育成の仕組みも強化していく必要があります。教育部内も制度対策部での再編経験を活かし対応していく考えです。

### 「関連情報」

私が、日本発達障害ネットワーク（JDDnet）の副理事長をしている関係で国土交通省の関連委員会では、バリアフリー法改正に伴う公共の交通機関・旅館や娯楽施設等、小規模店舗や都市公園に至る整備基準の検討が始まっております。これは、障害児者の活動・参加を促進するための社会的障壁をなくす取り組みです。さらに、厚生労働省の社会保障審議会に位置づけられている障害者部会においても参加する機会を得ており発達障害を中心になりますが専門的な視点も含め対応しております。

最後に、作業療法士の活躍の場は、保健・医療・教育・福祉・労働領域はもとより司法等新たな領域にも拡大しております。その背景にあるのは、物・道具を活用した作業を治療手段としており、年齢を問わず介入できる手段を有しているからです。作業療法士は、社会から当事者・家族から必要とされる専門職でなければいけないと思います。今こそ、作業療法の定義と法律に定められている作業療法士の目的を全うする必要があると考えます。今がチャンスと捉え、会員の皆様が半歩でも前に踏み出せるよう、皆様の後押しができる協会活動に今後も取り組みます。

## 「四国と全国をつなぐメッセージ」

(一社) 日本作業療法士協会 理事 岩佐英志

所属：合同会社ラシエイド 代表

四国作業療法士会連絡協議会の会員の皆様。第31回四国作業療法学会が盛会に執り行われましたこと、心よりお祝い並びにご準備いただきました浅川学会長をはじめ高知県作業療法士会の皆様に感謝申し上げます。31回を重ねた四国作業療法学会、思い出深きものがあります。学会は知識を共有するだけでなく人をつなぐ意味をもつものと認識しております。特に地域の学会はその意味合いが特に高まるように思います。これからも四国の地域課題の解決に作業療法が果たす役割を考え、協会と士会が連携して前進していきたいと思えます。

よくよく地域の時代と言われますが、地域が元気になるために何が必要かを地域包括ケアシステムとして提案してきた矢先、2020年から続く新型コロナウイルス感染拡大が起きました。これは災害級の出来事です。その状況下にあつて、病院や施設・事業所で働く作業療法士の皆様にとっては、大変気苦労の多い中での業務が続いていることとお察し申し上げます。収束に向けてのスピードは日々変化しているように感じますが、まだまだ気を抜けないのは事実です。

しかし、この新型コロナウイルス感染拡大によって対象者数とそのニーズは減少したということは聞こえてきません。私は、運転リハビリテーションに関わる人が多いですが、本田技研工業株式会社安全運転普及本部と共に立ち上げました四国運転リハプロジェクトのメンバーの皆様からも運転のニーズは変化なしと聞いておりますし、都会ではむしろ運転再開の希望は高いように聞こえて参ります。作業療法は、生活に直結するリハビリテーションですし、社会参加とその人の生き方を支援するリハビリテーションを提供できる職種と考えています。

最近思うことは、作業療法の可能性を作業療法士自身が信じてリハビリテーションを進めていくこと、そのためには職能団体と意識を共有することが大切なのでは無いかと考えています。

私が担当させていただいております協会役職については、47都道府県委員会副委員長、表彰審査会委員、女性会員の参画促進事業担当理事となっており、各士会の皆様と共に地域課題に如何に取り組むかを検討する機会が多くあります。47都道府県委員会は各士会長の方々が委員となられていますので、地域特性や士会独自の取り組み、さまざまな関係団体との連携など非常に話し合うことの幅がある討議を重ねています。特に、当協会の組織再編を進めていく中で、47都道府県委員会は協会と士会を更に組織的に繋ぎ、協会員＝士会員という整合された構成イメージを共有しながら、この時代に見合う職能団体としての活動を展開していくつもりです。

新型コロナウイルス感染拡大によって、大きく社会構造が変化してきました。協会もしかり、良いものは続け新しい価値を取り入れて会員の方々の作業療法を支えていくことを検討してきましたし、今後もその方針に変わりはありません。特にモデルチェンジしたのは、学会をはじめ各委員会の会議や研修運営においてリモートが積極的に活用されていることが挙げられます。リモートのメリットは、今まで移動や時間、家族の事などで参加を見送ってこられた会員の方々が参加いただいていることが大きいと感じております。このことは担当しております女性会員の参画促進事業の中でもよくよく話し合われていることです。女性会員が子育てしながらも気軽に作業療法について学ぶ機会を増やすことは、地域の作業療法士をつなぎ、知識と技術の研鑽につながるはずで、そして何より大切なのが、お一人お一人のモチベーションが高まることであろうと思えます。情報が限られた中でいると不安になります。果たしてこの作業療法で良いのだろうか？考えてしまい、あるいは結論が見いだせないと安全な方法で着地することしか出来なくなります。それはそれで悪いという



ことではないと考えています。ただ、時代や個人に合った作業療法を考えた時、患者様やご家族様の思いに立ち返り、学ぶ機会を求めるのでは無いかと思います。その行動がとても大切なのだと思います。

コロナ禍や社会情勢不安もありますが、動いてみる、人と関わってみる、学んでみることへの探求は尽きることは無いかと思います。私ごとですが現在、運転能力評価ツールの開発と販売、送迎スタッフへの安全運転オンラインサポートなどを進めておりますが、今まで作業療法士として出会ってきた患者様やご家族様の思いに向き合うことが凄く多くなりました。臨床をほぼ離れた状態ですので、作業療法士とのミーティングや工業やモノづくり、IT 産業や農業に関わる方々とも出会いが多くなりました。しかし、決して作業療法をどこかにおいていることはありません。新しいフィールドですが、障がいのある方の社会参加とそれを支える方々への提案をしていきたいと考えています。

これから、多くの作業療法士が育っていきます。医療や福祉、関係する知識や技術を一つずつ身につけていただきたいし、チャレンジしていただきたいと考えています。そして、人と繋がり自分のフィールドを広げてください。時に迷う時があると思いますが、先輩方のアドバイスが染みこむ時があると思います。四国の作業療法とリハビリテーションが更に発展するためには、四国作業療法士会連絡協議会と当協会がしっかりとタッグを組んで下支えしていくことが何より大切であろうと思います。

最後になりましたが、皆様の健康とご多幸と、益々のご活躍を祈念し挨拶とさせていただきます。

#### 【編集後記】

令和3年4月より高知県から徳島県へと事務局を引き継ぎいたしました。貴重な機会をいただけたことに感謝いたします。来年度もしっかりと努めていきたいと思っております。

S. T

四国作業療法士会連絡協議会  
令和3年度 第1回 役員会議

日時：令和3年5月7日（金） 18：30～20：00  
場所：Zoomにてオンライン会議 （各県別50音順記載）  
出席者：会 長：上田裕久 副会長：松本嘉次郎  
徳 島：細川友和  
香 川：前田悠志  
愛 媛：三澤一登  
高 知：平松真奈美・浅川英則  
事務局：田中 茂

◆協議事項

【協議1：四国作業療法学会の開催について】

○高知県作業療法士会の実行委員会では2021年度内の開催を計画している。開催形態について、当初はハイブリット研修も含めて検討してみたが、今回に限ってはオンラインのみで開催する意見がでていいる。開催時期について2022年2月を予定しており、講師の日程にて最終調整を行う方向で考えている。開催形態と開催時期について意見を伺いたい。

○四国学会の開催形態と開催時期に対する意見

香川県：オンライン学会に賛成。2月は養成校としては国家試験があるため外してほしい。オンライン開催の実施にあたって、Live配信で行うのか、一定期間受講できる事前録画（オンデマンド）で配信をするのかも検討してもらいたい。

愛媛県：オンライン学会に賛成。2月は県学会があるため開催時期は調整しなければならない。実施形態は、Live配信で行うにあっても、運営側の機材の関係や通信環境にもよるため検討が必要。前年度の県学会では80名ほど参加し、Live配信のみで行いスムーズに進行ができていた。

高知県：オンライン学会に賛成。県をまたがない方がよい。開催時期について、愛媛県の学会日程や国家試験の日程も含めて調整が必要。2月から3月で調整し年度内に開催できればよい。

徳島県：オンライン学会に賛成。事前録画での配信は良いと思うが、運営側の負担が多くなるためLive配信がよい。

○四国学会の参加費に関する意見

- ・四国学会における参加費について、オンライン学会やオンデマンド配信となると新たな運営費用がかかる可能性がある。当日参加は3,000円、オンデマンド利用者は5,000円など、参加費を見直してはどうか。また、今後のオンライン学会における参加費の一つの基準にもなるのではないかと。
- ・参加費は安い方がよい。オンラインになると、講師の交通費や宿泊費、会場費はかからなくなるが、オンデマンド等により費用がかかると予測される。それ以前に講師の許可も必要になる。
- ・現時点では判断材料が少ない。3,000円から5,000円と判断ができない。見積りや予算、参加予測人数を出し提案してほしい。
- ・オンライン学会となると、参加費の納入はどうするのか。
- ・参加費の納入はバーチャル口座を検討している。学会の参加登録・演題登録・ホームページ・Web抄録等を一括して対応している。参加費の支払い方法も選択でき、クレジット決済にも対応しており学会運営等の実績もあり現在検討している。

#### ○四国学会の運営に関する意見

- ・四国作業療法士会連絡協議会（以下、当会）で確認する内容を把握したい。オンラインの演題発表となると、各県でキー局を準備してもらえるのか。各県でキー局を設置した会場費や交通費は四国学会の予算で支払うと考えているが、キー局にかかる機材費やスタッフの運営費はどうしたらよいのか。
- ・四国学会の参加費だけは当会の役員会議で決定している。その他の日程や内容は開催県の事務局に任されているイメージである。四国学会のオンラインは初めてであるため、キー局を準備するにあたって、開催県から行動費や機材代等の協力金を募ってもいいのではないかな。そうすれば理事会にかけることもでき対応できるのではないかな。
- ・開催のイメージを統一した方がよい。メインは高知県が配信。演題発表に至っては、最近では通信環境も整っており、職場から発表すると捉えていた。各県でキー局を準備するというよりは、演題の発表条件に加えてみてはどうだろうか。高知県で運用しやすいフレームを作ってみてはどうか。

#### ○四国学会の前年度案内文等発送費（約18万円）の処理に関する意見

- ・現在、高知県士会で立て替えている状況。
- ・前年度に各県から高知県へ四国学会の予算が送られていない。
- ・高知県から改めて各県に請求金額を連絡し、6月中に支払う。
- ・前年度にかかった発送費（約18万円）は今年度予算から差し引きする。赤字になりそうであれば補填する。

#### ○決定

- ・開催形態はオンライン学会とする。
- ・開催時期は3月上旬で再調整。候補日を提案し次回役員会議で決定とする。
- ・参加費・運営内容に関しては、今年度の予算案を確認し役員会議で検討とする。
- ・四国学会運営費について、開催県が各事務局へ請求する。各県年度末の会員数に応じて6月に支払う。

### 【協議2：四国学会査読委員について】

#### ○発表演題の疾患が多岐にわたっており、現在の身体障害、精神障害、発達障害分野では対応しきれない状況がある。

- ・どのように分けるべきかは、一つ見本を提案し検討した方がよいのではないかな。
- ・細分化しすぎることによって危惧される事として、査読委員に委嘱しても場合によっては、5年間査読に上がらず終わることもあり今後の課題である。
- ・学会評議員会で検討した方がよいのでは。

#### ○決定

- ・学会評議員会を開催し検討していただき当会の役員会議で報告する。

### 【協議3：委員会について】

○当会における各委員会の状況を確認したい。

- ・養成校での委員会は、養成校で開催している。
- ・生涯教育委員会は事務局が招集した方がよいのか。
- ・生涯教育委員会は、各県の生涯教育委員は協会の生涯教育委員会と兼務している。学会の時に委員会を開催していた。
- ・学会評議委員長は3年に一度交代している。前年は徳島県が担当しており、今年から香川県会長が担当する。
- ・生涯教育委員長は今まで交代していなかった。この度から交代することとなり、愛媛県会長が担当する。

○決定

- ・学会評議委員長は松本嘉次郎先生
- ・生涯教育委員長は池ノ上卓治先生
- ・学会評議委員会と生涯教育委員会は、各委員会で招集し役員会議で報告する。
- ・各県士会で改選により役員交代があれば、各委員長の申し送りと引継ぎを行っていく。

### 【次回開催：令和3年度 第2回役員会議】

日 時：令和3年6月13日以降予定

開催県：徳島県(オンライン開催)

### 【次回議題】

1. 四国学会について
2. 改選による役員交代について

四国作業療法士会連絡協議会  
令和3年度 第2回 役員会議

日 時：令和3年6月18日（金） 18：30～20：00

場 所：Zoomにてオンライン会議 （各県別 50 音順記載）

出席者：会 長：上田裕久 副会長：松本嘉次郎

徳 島：細川友和

香 川：前田悠志

愛 媛：三澤一登・池之上卓治

高 知：平松真奈美・浅川英則・岡村忠弘（四国作業療法学会 実行委員長）

事務局：田中 茂

◆協議事項

【四国作業療法学会（以下、四国学会）について】

I. 報告事項

1. 第31回 四国学会 開催日 令和4年2月26日（土）・27日（日）の2日間開催。この会期で全員の講師から了承を得ている。
2. 初日は山本先生の基調講演、シンポジウム、セミナー、発表演題を組み込んでいる。2日目は公開講座を予定していたが、Web開催のため運営が難しいため通常の講演に切り替えている。
3. シンポジストより「是非、コロナが落ち着いていれば集まってシンポジウムを行いたい。」との希望があり、県外講師の旅費・交通費を予算案に計上している。
4. 予算案について、（画面共有にて予算案参照。）

【収入】

|     |                   |                        |
|-----|-------------------|------------------------|
| 参加費 | 600,000円          | 参加費を3,000円、参加予定者を200名。 |
| 運営費 | 2,000,000円        | 四国作業療法士会連絡協議会          |
| 合計  | <u>2,600,000円</u> |                        |

【支出】

|            |                   |                                           |
|------------|-------------------|-------------------------------------------|
| 講師謝金       | 220,000円          | 講師11名分                                    |
| 旅費・交通費     | 171,000円          | 県外講師3名分                                   |
| 貸借料        | 100,000円          | 会場 土佐リハビリテーションカレッジ （Web開催に関連し有線が使用できるため）  |
| 配信機器・設備委託費 | 200,000円          | 2日間のカメラやスイッチャーの使用料・人件費含む                  |
| 印刷・封入作業委託費 | 400,000円          | 封入作業・発送費込み                                |
| 封筒印刷代      | 66,330円           |                                           |
| 通信運搬費      | 10,000円           |                                           |
| H P 管理委託費  | 650,000円          | Web開催に際して、アトラスへ委託。H P の設営・参加費の徴収（オンライン決済） |
| 消耗品        | 30,000円           |                                           |
| 会議費        | 614,000円          |                                           |
| レンタル費      | 120,000円          | パソコン6台分                                   |
| 雑費         | 18,670円           |                                           |
| 合計         | <u>2,600,000円</u> |                                           |

5. 配信に関して、この度は2日間ともにLIVE配信としオンデマンド配信は行わない。
6. 学会誌について、Web開催ということもあり、P D F のみとし紙としての学会誌は作成しない。



## II. 審議事項

### 1. シンポジウムに関して

- (質問・三澤) ・シンポジスト以外の講師は対面を希望されていないのか。  
・参加者がチャット等で質問し意見交換ができる場はあるのか。  
・参加者と双方向のやり取りができ臨場感が得られるようになってほしい。
- (回答・岡村) ・他の講師はオンラインでの参加で了承を得ている。質問については、Zoomミーティングを使用するのではなく、Zoomのウェビナーを使用し、チャットで受け付け座長や司会者に集約し回答していく形式を考えている。
- (意見・三澤) ・四国の作業療法士は学会がメインな活動となっており、人と会わないストレスを抱えている。今後は経費がかからない開催で、負担の少ない方法で効率よく収穫が得られる研修会ができれば良いと思う。協会では全国規模のため、オンライン形式でツールを使っただけ、会員に情報発信できる形で進んでいくと思う。
- (決定事項) ・開催時期の感染状況が落ち着いていればシンポジストを会場に招き行う。ただし、会場だけが盛り上がるのではなく、Web参加者が参加できるように運営方法を検討する。

### 2. 参加費に関して

- (意見・上田) ・前回の会議で「予算に合わせて参加費を3,000円もしくは5,000円に変更する。」との、議題が上がっていた。今後のWeb学会の指標にもなるため参加費を確定させたい。
- (質問・平松) ・今回の予算に計上されている沖縄からの交通費は50,000円で足りるのか。  
・予備費が18,000円と少ないのではないのか。活動を行うにあたってぎりぎりではないのか。
- (回答・岡村) ・現時点では、東京高知往復で24,000円。東京沖縄往復も50,000円とれる。ANAは、現時点で予約してもキャンセル料がかからず全額戻ってくるシステムになっている。  
・昨日、HP管理委託会社のアトラスから連絡を受けた内容では、現在参加予定者を500名として65万円で計上しているが、参加者予定者を400名に契約しなおすと49万円となり、予備費として約15万円は残る予定。
- (意見・平松) ・予備費があれば良いと思う。予備費が少なかったことと、2日間の終日研修ということもあり、3,000円では安いのではと思った。
- (質問・上田) ・例年は何名参加していますか。  
・参加費の徴収は1日参加で3,000円か。それとも両日参加で3,000円か。  
・参加人数が増える可能性もあるのか。
- (回答・浅川) ・例年の実数では300名未満。2日間の両日参加よりは、1日参加が多い。Web学会だとしても、勤務の都合上1日参加が多いと予測される。  
・一括で考えている。1日・2日との線引きはせずに、申し込み時点で3,000円と考えている。  
・Web開催であれば、対面に比べ100名ほど増える可能性が考えられ、現在は参加予定者を200名で計算しているが、300名で計算してもと考えている。
- (質問・上田) ・アトラスに支払うHP管理委託費は、参加者が少なくなると安くなるのか。
- (回答・岡村) ・現在、参加予定者が200名から400名という枠での見積もりである。400名を超すと上位のプランとなり後払いで支払うようになる。400名を超えても参加者が増えれば収益も増えるため、支払いにも問題はないと考えている。
- (意見・平松) ・Web開催であれば、参加者も途中で休憩を取ると考えられる。全体のボリュームを考えると、参加者が聞きたいところに入室できるかたちとして、2日間参加としていても、実質1日分くらいになるのではと考えられる。そのため、1日もしくは2日参加でも同額で良いと思う。
- (意見・松本) ・予算の計算上に問題がなければ、1日もしくは2日間参加でも同額の3,000円が良いと思う。Web開催といって参加費が高くなることにより、参加者が少なくなってもいけないと思う。
- (決定事項) ・参加費は2日間通して3,000円とする。

### 3. 学会誌に関して

- (質問・細川) ・学会誌についてPDFにするとしても、ISSN登録に関連し国会図書館には1冊作成し送るのか。
- (質問・三澤) ・ISSNは年次更新のため、令和2年度との合同学会として理解してもらい、登録が切れなように分かりやすく国会図書館に説明したほうがよいのではないか。
- (回答・岡田) ・ISSN登録の事務局に問い合わせて確認する。  
・四国作業療法士会連絡協議会としては、国会図書館への登録を途切れさせないことを前提に対応する。
- (決定事項) ・次回の継続審議とする。

### 4. Zoomの回線に関して

- (質問・岡本) ・現在のプログラムでは同時開催の部分があり2回線を予定している。1つは高知県作業療法士会で使っている回線を使用する。学会は毎年開催し輪番制で回るため、もう1回線を四国学会から支払うかたちをとり他県士会から1回線を2日間貸していただくことは可能か。また、その際の注意点として他県士会にZoom IDやパスコードが知られることも踏まえて、ご意見をいただきたい。
- (回答・細川) ・Zoomアカウントは県士会で2つ取得することができ、別のアカウントとパスコードを使えるようになる。
- (意見・前田) ・Zoomを2回線にすると、参加者によってA会場とB会場を行き来することになり、管理が大変と思う。しかし、対面形式よりはマンパワーが少なく、会議費も抑えられると思う。
- (決定事項) ・Zoomの回線に関しては、高知県作業療法士会でもう1アカウントを取得する。

### 5. キー局に関して

- (質問・上田) ・キー局について、前回の会議で「各県士会にキー局を準備するのか。その時、各県士会からの協力金を募るのか。予算を確認し検討する。」との、意見がでていたが、どのように対応するのか。
- (回答・浅川) ・キー局は各県にもたず高知県のみとし、協力金も募らない。
- (決定事項) ・キー局に関しては、各県士会に置かず高知県のみに置く。

### 6. 予算の請求に関して

- (質問・上田) ・予算について各県3月末の会員数で計算するとしても、開催県の四国学会事務局が各県士会に請求するので良いのか。
- (質問・細川) ・218万円の分配について会員数は何処に送れば良いのか。
- (回答・平松) ・四国作業療法士会連絡協議会の事務局が会員数を集計する。四国4県で割合を算出し各県士会に通知し高知県作業療法士会の口座に入金するよう連絡することが妥当かと思う。高知県作業療法士会からダイレクトに請求することはおかしいのではないか。
- (決定事項) ・四国作業療法士会連絡協議会事務局に各県3月末時点の会員数を連絡。拠出金を算出し各県士会に請求金額を提示する。

### 7. 四国学会における後援依頼に関して

- (質問・浅川) ・四国学会をWeb開催するにあたり後援依頼どのようにしたらよいか。従来通り職能団体や行政も含めて依頼をしてもよいのか。
- (回答・平松) ・47委員会の時に東北のWeb学会のチラシを拝見した。掲載されていたか確認してみてもどうか。従来通り掲載するほうが良いのではないか。
- (回答・岡本) ・東北学会では掲載されていた。
- (意見・三澤) ・四国学会のパンフレットができればHPに挙げて、各県士会で印刷し掲示すると良いのではないか。
- (決定事項) ・四国学会における後援依頼に関しては従来通り行う。

8. 日本作業療法士協会 制度対策部からの依頼について

- (質問・岡本) ・制度対策部について、前回の愛媛県でも行っていたが、今年度も是非高知県の四国学会に合わせて日本作業療法士協会の制度対策部から一緒に開催させてもらえないかと依頼がきている。同時開催について許可して頂けないかご意見をいただきたい。
- (回答・池之上) ・前回の愛媛県で、過去にも一度行っているため、問題はないと思う。
- (回答・上田) ・四国作業療法士会連絡協議会としても断る理由はない。タイムスケジュールは調整してほしい。
- (意見・三澤) ・日本作業療法士協会としては、同時に行うと参加が増えるのではとの考えがある。前回の愛媛では対面で行っている。時間設定や内容は学会プログラムに合わせ調整を行う。選択枝が1つ増えるが、自由に選択し両方とも良い意味で参加してもらえたらと思う。
- (決定事項) ・今年度の四国学会と合わせて日本作業療法士協会制度対策部の会議を行う。

9. 学会評議委員会について

- (質問・平松) ・四国学会の開催にまでに学会評議委員会が別途集まる必要があると思う。
- (回答・松本) ・一度、集まりたいと考えている。
- (質問・松本) ・演題募集はいつから始まるのか。
- (回答・岡本) ・演題募集は8月から9月ごろ。
- (決定事項) ・学会評議員のメンバーを確認し、座長や査読のメンバーを選考するため、近日中に学会評議委員会を開催する。

【次回開催：令和3年度 第3回役員会議】

日 時：令和3年12月 開催予定

開催県：徳島県(オンライン開催)

【次回議題】

四国学会の進捗状況について

四国作業療法士会連絡協議会  
令和3年度 第3回 役員会議

日 時：令和3年12月20日（月） 18：30～19：30

場 所：Zoomによるオンライン会議

出席者：会 長：上田裕久

副会長：松本嘉次郎

香 川：前田悠志

愛 媛：池之上卓治・三澤一登

高 知：平松真奈美・浅川英則

事務局：田中 茂

欠席者：徳 島：細川友和

◆協議事項

【四国作業療法学会（以下、四国学会）について】

I. 報告事項

1. 第31回四国学会 開催日令和4年2月26日（土）・27日（日）
2. ホームページの運用開始。
3. 演題も予定数が集まり、セッションも予定通りに開催可能。内訳として高知の演題がやや多い。査読の締め切りが今週末12月24日となっており、その後抄録が完成する予定。
4. 申込人数は現時点で61名（全員クレジット決済済み）、年明けに再度広報を行う予定。
5. 拠出金について現時点で愛媛県からの振り込みが未納。

II. 審議事項

1. 学会誌について

- （質問・上田） ・ 前回の継続審議として残っていた学会誌をPDFにするにあたって、国会図書館の登録やISSNの登録に問題はないのか。
- （回答・浅川） ・ 電子媒体と紙媒体を作成し登録する形で進めている。四国学会を継続した取り組みとして捉えてもらえるのかという点に関しても、電子媒体と紙媒体の両方を登録することで、四国学会のこれまでのかたちを継いでいける。紙媒体は国会図書館への登録用や学校への保管用として50部のみ作成する予定。
- （意見・三澤） ・ 年度またぎで計画されているということから、四国学会は継続されているということを送付資料などで分かるように提示をされておいた方がよいと思う。根拠を残しておいた方がよいと思う。
- （回答・浅川） ・ その旨を担当者に伝えておきます。
- （決定事項） ・ 第31回四国学会は電子媒体と紙媒体の学会誌を登録することにより、国会図書館やISSN登録が継続とみなされることとなった。

2. 学会の参加者数について

- （質問・三澤） ・ 参加者数について、どれくらいを予定されていたのか。
- （回答・浅川） ・ 予定数は200名。高知であと70～80名は参加できると思います。
- （質問・浅川） ・ 各県の事務局に四国学会のデータを送り、会員へお知らせすることは可能か。
- （意見・三澤） ・ 各県で増員をかけましょう。
- （回答・松本） ・ メール配信やホームページで対応します。ホームページも時間がたつと後ろの方に行ってしまうため、もう一度頭の方にもってくるのか、メール配信で催促するなどでは当然できます。データをください。郵送は郵送費の関係があるので、メールを2～3回流すことで会員の目にもとまると思います。香川のホームページに四国学会のバナーを作っているの、データを送っていただけたら、載せることもできます。
- （決定事項） ・ 各県士会事務局から会員へ四国学会への参加を呼びかける。

### 3. 学会の講義形式と受講形式について

- (質問・上田) ・県外の講師はお越しになるのか。
- (回答・浅川) ・基調講演の山本先生は来られません。土佐リハを基地局とするので、地元の講師の先生方と座長の方は来て頂きます。県外のシンポジストの先生は現地(会場)で行うことを望んでいるため、最終決定は12月末と答えています。受講形式は配信のみとし、県外のセミナーの先生はZoomで行うことが確定しています。
- (意見・三澤) ・先週の日本作業療法士協会の理事会でCOVID-19に対するバージョン4の基準が提示されました。あくまでも協会の活動に関しての基準ですが、県士会でも参考にしてみたいと思います。今の感染状況から考えれば移動は可能かと思います。開催県と講師の先生がおられる県の状況を鑑みてそれに順守した形で判断をされたら良いと思います。協会として基本、会議はZoomで行います。学会は来年度京都であるが会場費が高く、参加者の見込みがかなり減ってきている。現地に行く人が少なくなってきたので、なかなかハイブリット形式がどこまで現実的なのかと、先日の理事会でも議論の焦点になりました。なので、今までの予定スケジュールに沿って対応されてたら良いと思います。2年越しでご準備されていることですし、最終判断として、感染状況やオミクロン株がどうなるか分かりませんが、年明け早々に感染者が増えしまうと、関東の方は厳しいかもしれませんが、一つ参考になればと思いました。
- (意見・上田) ・三澤先生のお話にもあったように、集まれそうであれば是非集まってシンポジウムをした方が、シンポジストの方も話がしやすいと思うので、ぎりぎり判断していただけたらと思います。
- (意見・三澤) ・感染対策がかなり大変だと聞いています。万全に対策はたてられていると思いますが、クラスターにならないように最低限対応しておかないとまずいかなと思います。プレッシャーをかけるつもりはないのですが、宜しくお願いしますとしか言えないです。
- (質問・松本) ・神奈川、大阪、沖縄はかなりの遠方になるのですが、旅費を考えると、四国学会の予算的には大丈夫なのか。
- (回答・浅川) ・当初からこの先生方に関しては、旅費を計算して予算立てをしています。ばらばらにとるのではなく、宿泊とのパックでとると意外とそんなには金額がかからないです。これが際になると金額が読めないですが、現段階では予算内で十分に収まるような形にしています。
- (質問・平松) ・最終判断はいつにするのか。
- (回答・浅川) ・査読の締め切りが12月24日なので、12月27日に委員会を開くことになっています。27日に一度判断する予定を立てています。
- (意見・上田) ・1月末に徳島でリーダー研修を予定しており、県外講師を一応呼ぶ方向で準備をしています。急激な感染拡大になれば中止する方が早いですし、宿泊や航空券などの都合で予約しなければいけないのでしたら予約しておくなど準備等をしていればと思います。
- (質問・浅川) ・どちらの県の講師が来るのですか。
- (回答・上田) ・宮城県と福井県です。一応お越しいただく方向で準備をしています。
- (意見・浅川) ・こちらも、来ていただく方向で準備をします。ただ、もしもということも想定して、対応ができるように二通りの道筋で準備を進めていきたいと思っています。
- (決定事項) ・シンポジストの方がお越しいただけるように準備をしつつ、新型コロナウイルスの感染状況をみて最終的に12月27日の実行委員会で判断する。

### 4. 参加費の決済方法について

- (質問・平松) ・先ほどの参加者60名について、今回の決済方法はクレジットのみですが、クレジットを使っていない人は入れないのですか。もう一つ決済方法を追加すると複雑になると思いますが、別の方法があればとも思います。愛媛県学会が1月にあると思いますが、決済はクレジットのみですか。
- (回答・池之上) ・クレジット決済にはしていません。基本的に学会費の徴収はおこなっていないです。
- (意見・平松) ・最近では、〇〇ペイの方が多くわざわざクレジットまでは使わないのですが。
- (回答・浅川) ・電子マネーの方はものすごく費用がかかります。例えば参加者が1,000名くらいの規模になると、それをするメリットはありますが、この規模だと、ものすごく費用かかると言われました。

- (意見・平松) ・手数料がかかりローカルの手法ですが郵便振り込みはどうでしょうか。決済方法が一つでクレジットのみが理由だとは思わないですが、参加者が思うように伸びなければ少し考えた方がよいのではと思う。
- (回答・浅川) ・そこが一つの理由としてあがるのであれば、今後の課題になるかと思います。恐らく今後も会計がかなり大変な労力になるのかなと思います。一つクレジットという道筋がつけば、今後の各県もやりやすいのではと思い、今回はクレジット1本で様子を見てみたらというのが一つの理由です。今まで毎回会計がすごく大変だったと思います。
- (意見・平松) ・他の決済にするとお金の管理が大変なんですよね。私はクレジットで試せばよいと思って聞いていたんですが、あまりに参加者が少ないとどうかと思ってしまいました。方向性が違うのではありません。今時、現金でやり取りする時代ではないとも分かっていますが、参加人数のところで少し気になっただけです。
- (回答・浅川) ・ありがとうございます。
- (意見・上田) ・今後の方向なども考慮しながら、クレジット決済で一応様子をみて今後の判断の一つにしていけたらなと思います。
- (決定事項) ・第31回の四国学会はクレジット決済のみとし様子をみていく。

## 5. 予算について

- (質問・上田) ・予算について、支出は講師の交通費も込みで260万円。収入は参加者200名を想定して60万円、各県士会からの運営費が200万円、合わせて260万円です。支出が260万円とかつかつですので、万が一200名集まらなければ予算をきるかもしれない。この場合の補填は大丈夫なのか。
- (回答・浅川) ・ホームページの管理委託費が当初より少し安い金額になりました。そこで少し浮いてくる予算があるのと、それこそ講師の交通費もかなり余裕をもたせているので、恐らく予算の半分以上でいくと思います。それでも、参加者が極端に少なくなるようであれば、実行委員の行動費などで調整していくしかないと思います。ただ会議の時の駐車場代は出さないといけないうため、活動費の1回1000円という部分を削らなければいけないと思っています。そのあたりは、当初からお金があればというところで、出せたらと話もしているので、とにかく人が来てもらえるようにとやっていきたいと思っています。
- (意見・上田) ・活動費はあまり下げなくても、わずかであれば各県から少しずつ補填する方法もあるのではないのでしょうか。
- (回答・浅川) ・今回の予算で上手にできるように頑張ります。
- (意見・上田) ・参加者が多ければ済む話なので、ぜひ各県で声掛けをお願い致します。
- (意見・前田) ・赤字黒字の補填についての情報なんですけど、第29回四国学会の時この会で取り決めたことは、運営費を200万円いただいているので、その1割20万円までの黒字は、主催県士会に入る。40万円黒字だった場合は、20万円が主催県士会に入り、残りの20万円を各県の分担比率で計算し各県士会に分配する。赤字の場合も同じで、1割20万円までの赤字は主催県士会で負担し、40万円の赤字であれば20万円は主催県士会、残りの20万円を各県の分担比率で割って各県士会が負担するというふうになったと思います。少し黒字が一番手間もなくまとまるかと思っています。
- (質問・上田) ・今の案で引き続きよろしいのでしょうか。
- (回答) ・(他の理事からも意義なし)
- (意見・上田) ・三年前の取り決め則って運営していくということでお願い致します。
- (意見・松本) ・今回、インフォメーションがうまく入っていないと思います。コロナとかいろいろあったので、そこが上手く四国学会に気が向けば参加者が増えると思います。
- (意見・浅川) ・年明けにデータを送らせて頂きますので、各県士会でインフォメーションをお願い致します。一応、地元なのでたくさん参加してもらえるように努めたいと思います。
- (決定事項) ・収支の結果、黒字の場合一割以内は主催県士会に入り、一割以上は一割まで主催県士会に入り、残りは各県の分担比率により計算し分配する。赤字の場合、一割以内は主催県士会が負担し、一割以上は一割まで主催県士会が負担し、残りは各県の分担比率により計算し負担する。

## 6. 学会評議委員会について

- (質問・松本) ・学会評議委員会を8月27日に行いました。議事録は12月頃に事務局に送っています。当日Zoomなので採点をどうするかというのが議題に上がっています。高知の評議委員からも話があがっていると思うのですが。
- (回答・浅川) ・その話は橋田先生の方から聞いています。
- (意見・松本) ・次回はある程度プログラム等ができて、高知の橋田先生から連絡がきたら、第2回評議会を開催したいと思います。あと、松本勉先生が評議員をおりと言っており、承諾しました。査読委員の委嘱状が去年送れていなくて、今年事務局の方から送っていただきました。
- (意見・浅川) ・今回、抄録の査読を送る時にいくつか困ったことがありました。先生方のメールアドレスが使えない方が結構いました。そのため、査読の先生を振り替えました。どのタイミングでメールアドレスが変わっているかの確認は難しいと思うのですが、先生方のリストに職場の電話番号はあるので、所属さえが変わっていなければ連絡はとれたのですが、記憶にあるだけで7~8人ほどメールが返って来た人がいました。今回はメールアドレスを軸にやり取りを考えていたので、思いのほか振り替えなどばたばたしてしまったという過程がありました。
- (意見・松本) ・各県でアドレスを精査してもらいましょうか。
- (意見・浅川) ・そうですね、今後もこの形で行くと、同じようなことが起きて、運営にも影響すると思います。
- (意見・松本) ・前回、去年か一昨年に査読継続の確認はとったのですが、連絡先の有無はとっていない可能性があります。全部まとめて確認が必要です。
- (質問・上田) ・査読委員のみのメールアドレスですか。
- (回答・浅川) ・各県士会に座長と査読委員のリストがあります。座長を受ける、査読を受けるというのが分かる一覧にメールアドレスが入っています。
- (意見・上田) ・急ぎであれば、今この場で名前を挙げて確認をしてみてもどうでしょうか。
- (回答・浅川) ・この度は、振り替えて対応しました。大丈夫です。
- (意見・上田) ・各県士会で査読・座長のアドレス確認を再度お願い致します。
- (意見・松本) ・今回、ちなみに令和2年でスタートして、3年間なので令和5年で更新します。それまで待てそうにないので今回で更新した方がいいですね。
- (意見・浅川) ・徳島の時に活用できたらと思います。
- (決定事項) ・Zoomによる演題発表の採点をどうするかを次回の評議委員会で決定する。  
・座長と査読委員のメールアドレスを各県士会で再度確認する。

### 【次回開催：令和4年度 第1回役員会議】

日 時：令和4年4月上旬～中旬頃

開催県：徳島県(感染状況により対面もしくはオンラインにて開催)

### 【次回議題】

- 第31回四国学会 報告
  - ・学会誌について
  - ・電子ジャーナル登録と保存先について
- 第32回四国学会進捗状況について